

1960年代のミニ開発住宅地S地区に関する研究

ーその2 多様なコミュニケーションの実態ー

日大生産工(研) ○竹内奈保子

日大生産工 曽根 陽子

1 まえがき

本報告は「その2」に記述したS地区においての住民の近隣コミュニティの象徴の一つとして夏に行われるお祭りを例にあげ、住民同士の関わりを報告する。

この地区には神社など祭りの発端となるものはなく、町会が中心となり商工会がそれをサポートする形でお祭りが主催されている。数ヶ月前から住民同士が協力し出し物の練習をするなど毎年とても盛り上がり地域の最大のイベントとなっている。

2 出店について

商店会：スーパーボールすくい・金魚すくい

ポップコーン・焼きそば・ネオンプレス

レクリエーション協会：生ビール・ソフトドリンク・枝豆

ソフトボールクラブ：焼き鳥・たこ焼き・かき氷・酎ハイ



3 参加している人たちについて

3-1 公民館のグループ

- ・盆踊りの中心となって踊っていたのは民踊同好会や鈴音会の人達であった。浴衣も帯びも揃いのものを使用していた。
- ・婦人部の席では、芝富士ミニテニスクラブに所属している人が来賓席に人が入るとお茶やお菓子などを出していた。

その他

- ・子供達はほとんど芝富士小学校の子供達だった。
- ・PTAが子供の安全のため警備をしていた。
- ・来賓席には町会長や前長会長、公民館の館長が町内の人達と親しげに話していた。

- ・終わりごろには市議会議員が挨拶に回っていた。
- ・比較的小学生のグループが多い。
- ・高齢者は孫や子供と一緒に来ている。
- ・小学生以下の子と親の姿も多い。
- ・公園の周りにはS地区とは関係のない人が模擬店を出していた。
- ・19：00くらいから高校生が公園の周りに集まっていた。

4 お御輿について

お御輿は地域住民による手作りのものであった。参加者はほとんどが男性で、S地区以外の人も参加し、また参加者はみなS地区の半被を配られ着用していた。

休憩を4回挟みながら地区を回っていた。(図1) 休憩の時は公民館で昼食をとったり、老人ホームの前で鈴音会の人たちの踊りが披露された。住宅とお御輿との隙間はギリギリであった。子供みこしも同時に行っているのでもわりには保護者の姿が見られた。お御輿を担ぎ終えたら打ち上げが始まった。



- ① 芝富士一丁目公園
- ② 伊勢元酒店
- ③ ベストライフ
- ④ 公民館
- ⑤ 三和土木前

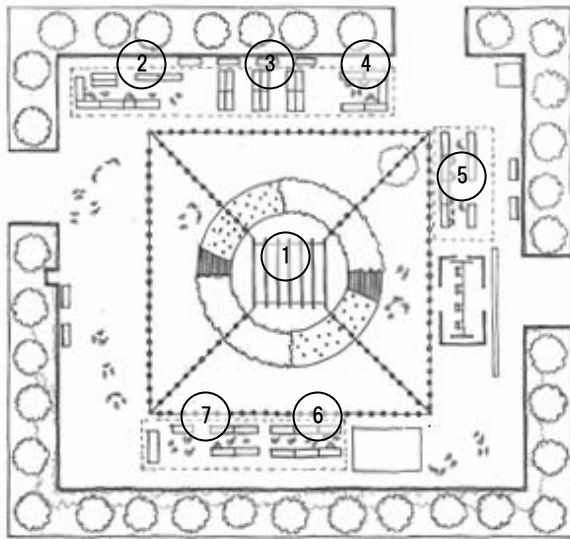
図1 お御輿の順路



Research on the Mini-development Residential Area S of the 1960s
ー Thorough the Actual Situation of a Summer Festival ー

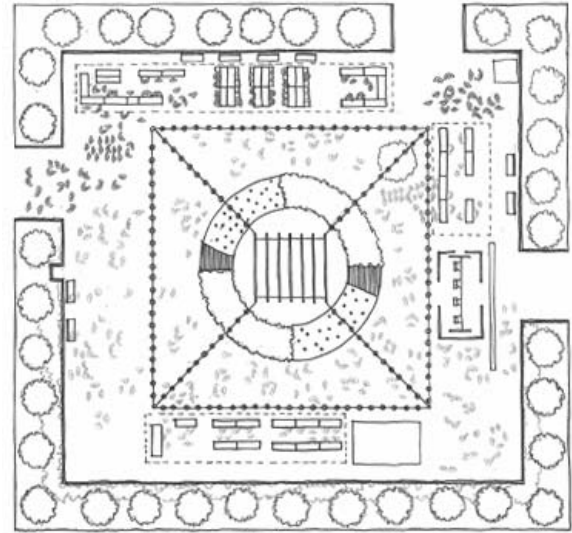
Naoko TAKEUCHI and Yoke SONE

5 盆踊り会場の時間ごとの人の動き



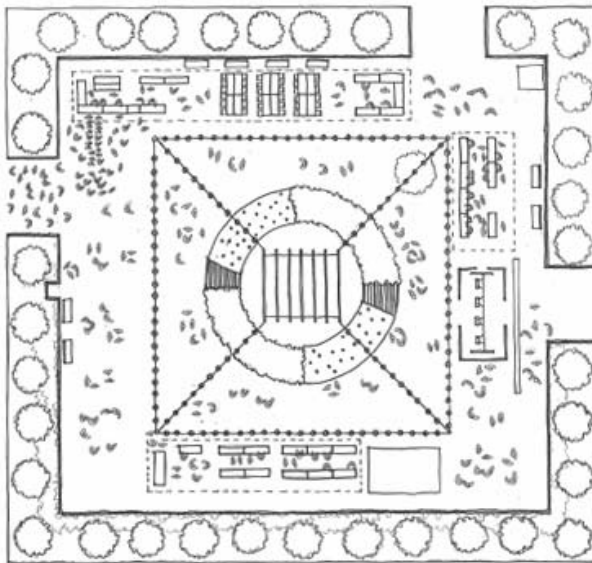
17 : 00

- ・模擬店の準備が始まり人も集まりだす
- ・盆踊りの曲が流れ始める



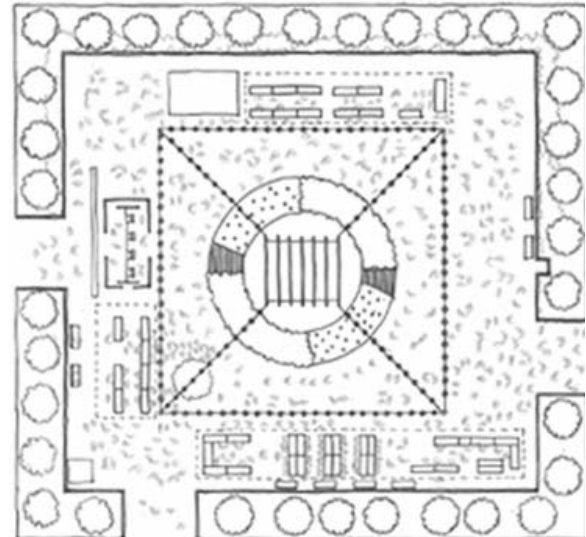
19 : 00

- ・浴衣を着たおとなが盆踊りを踊り始める
- ・民謡同好会の人たちがやぐらで踊る準備を始める
- ・たこ焼きや屋に行列ができる



18 : 00

- ・子供達にお菓子が配られる
- ・会場の半分くらい人で埋まる
- ・18 : 30に盆踊りが始まる



20 : 00

- ・子供も大人も一緒に踊っていた
- ・くじの抽選のアナウンスが頻繁に流れる

- ① やぐら
- ② 受付
- ③ 来賓席
- ④ 婦人部詰所
- ⑤ ソフトクラブによる模擬店
- ⑥ レクリエーション協会による模擬店
- ⑦ 商店会による模擬店

6 まとめ

この夏祭りは高齢者から子供までが参加し出店や企画を町会を中心に商店会や地域住民が行い、この地区の人たちの関係性が随所に見られた。